

## **JEC「原発被災白書」(仮称)プロジェクトの提案について**

2015年11月20日(金)

JEC検討委員会：寺西メモ

### **1. JEC検討委員会のこれまでの主な取り組みの経緯：**

- ①2011年5月発足以来、計25回の全体会合の積み上げ
- ②2012年6月：農林中金総合研究所との委託調査の契約
- ③2013年6月8日：日弁連との企画協力による市民公開・特別シンポ開催
- ④2013年秋以降、3つの検討部会（①原発被害補償検討部会、②震災復興行財政検討部会、③被災地域再生検討部会）の立ち上げと積み上げ
- ⑤2013年12月以降、「JEC原子力損害賠償問題研究会」の立ち上げと積み上げ
- ⑥2014年1月以降、「JECふくしま地域・生活再建研究会」の立ち上げと積み上げ
- ⑦2014年3月11日：「JECからの意見書1,2,3」の公表と関係諸機関への郵送
- ⑧2015年4月24日：特別座談会（「大震災と原発事故からの復興と再生：5年目の課題」）
- ⑨2015年5月：淡路・吉村・除本編著『福島原発事故賠償の研究』日本評論社、刊行
- ⑩2015年6月6日：日弁連との共催による市民公開・特別シンポ開催  
「JECからの意見書（第二次）」「JEC特別声明」の記者発表と関係諸機関への郵送
- ⑪2015年7月：除本・渡辺編著『原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか』  
ミネルヴァ書房、刊行

### **2. JEC「原発被災白書」(仮称)プロジェクトについての提案**

- (1) 福島原発事故後5年目の現状と今後の課題をめぐり基本認識
  - ・東日本大震災と福島原発事故が発生してから早くも5年目を迎えているが、この間、被災者の補償・救済、被災地域の復興・再生は必ずしも順調には進展していない。
  - ・とりわけ福島原発事故による被災者の補償・救済、被災地域の復興・再生は、「原発被災」に伴う特有な困難を数多く抱え込み、この間にますます深刻な諸問題が累積している。しかも、この状況は、今後も相当長く続いていくと考えざるを得ない。
- (2) そうしたなかで、JEC検討委員会に何が求められているか、また、何ができるか？
  - ・この間、福島原発事故による深刻な被災の全貌そのものが十分に明らかされていない。そのなかで、むしろ各種の被災実態の軽視と過小評価、各種の情報隠蔽と被災者・被災地域の分断化、原発事故そのものの「風化」、さらには原発再稼働への逆流など、憂慮すべき事態が進行している。
  - ・JEC検討委員会には、上記の状況を打開・転換していくために、学際的な研究者・専門家のネットワークとしての特性を活かし、この間の「原発被災」の実情を多面的に明らかしつつ、今後における被災者の補償・救済、被災地域の復興・再生に向けた政策的諸課題を対抗的に示し、広く内外に情報発信していくことが求められている。

### 3. 「原発被災白書」(仮称)プロジェクトの提案とそのための編集委員会体制案

- (1) JEC 検討委員会のもとに、JEC「原発被災白書」(仮称)編集委員会&編集事務局を新たに立ち上げる。
- (2) 今後、JEC 検討委員会は、この JEC「原発被災白書」(仮称)プロジェクトの取り組みを中心に据えた活動を進めていく。
- (3) JEC「原発被災白書」(仮称)シリーズの編集委員会&編集事務局の体制案について
  - ・代表：寺西俊一 (JEC 検討委員会委員長兼務)
  - ・編集委員会メンバー (あくまで寺西試案)：
    1. 寺西俊一 (編集代表)
    2. 石田信隆 (編集委員)
    3. 磯野弥生 (編集委員)
    4. 大島堅一 (編集委員)
    5. 小山良太 (編集委員)
    6. 除本理史 (編集委員)
    7. 吉村良一 (編集委員)
  - ・編集事務局メンバー
    1. 高橋克彦 (編集事務局)
    2. 寺林暁良 (編集事務局)
    3. 石倉 研 (編集事務局)
    4. 藤原 遥 (編集事務局)

\*編集顧問として、淡路剛久、小出裕章、吉岡斉の3氏にお願いすることも検討する。

- (4) JEC「原発被災白書」シリーズの執筆は、JEC が有する学際的ネットワークや JEC 検討委員会のこれまでの取り組みのなかで築いてきた人的ネットワークを最大限に生かし、また、依頼を行うテーマや分野等にふさわしい方々にお願いする。

### 4. 今後の基本的なスケジュール案 (あくまで、現時点での予定案)

- ・2015年12月下旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合 (編集原案の検討)
- ・2016年01月中旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&編集委員会第1回会合
- ・2016年02月初旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&検討委第27回全体会合
- ・2016年03月19日(土)～20日(日)：第3回「原発と人権」全国研究・交流集会
- ・2016年04月中旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&編集委員会第2回会合
- ・2016年05月下旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&検討委第28回全体会合
- ・2016年06月下旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&編集委員会第3回会合
- ・2016年07月下旬：JEC「原発被災白書」編集事務局会合&検討委第29回全体会合
- ・2016年10月初旬～中旬：JEC『原発被災白書2016・2017年版』の創刊

(以上)

<別添 参考資料>

第3回「原発と人権」全国研究・交流集会の開催プログラム案 (2015年11月9日現在)

○2016年3月19日(土)(第1日目): (会場・福島大学)

13:30～: 開会挨拶 実行委員長: 寺西俊一 (日本環境会議理事長)

<第I部>

13:40～: ・報道現場からの報告

「福島第一原発は今どうなっているのか?」(映像を交えて)(仮)

山川剛史 (東京新聞社会部原発取材班キャップ)(内諾済み)

「福島第一原発事故後の現状と廃炉への課題」(仮)

佐藤 暁 (原発技術者)(交渉予定)

<第II部>

14:20～: 原発被災者からの訴え (5年を経過しての悩みと要求)

10分×4名 (登壇者検討中)

15:00～ (休憩)

<第III部>

15:15～: 基調講演①

「これまでの復興の問題点と今後の復興のあり方」(仮)

鈴木浩 (福島大学名誉教授)(内諾済み)

・基調講演②

「この間の各種原発関連訴訟の到達点と問題点」(仮)

井戸謙一 (弁護士・元裁判官)(内諾済み)

・基調講演③

「包括的生活利益の侵害からの人権回復と法的課題」(仮)

淡路剛久 (立教大学名誉教授)(内諾済み)

17:30 終了 (参加者交流・懇親会の会場へのバス移動)

18:45～ 参加者交流・懇親会 (～21:00まで)(於・飯坂温泉)

○2016年3月20日(第2日目): (会場・福島大学)

09:30～: 各分科会の開始

14:30～: 全体会

各分科会からの報告 (各15分)

15:45～: 閉会挨拶 現地実行委員長: 今野順夫 (福島大学元学長)

16:00 : 閉会

## <2015年11月9日時点で、予定・検討されている分科会>

### ① 原発被害賠償問題分科会（仮称）：

> 日本環境会議「原発被害賠償問題研究会」が主催。

責任者：吉村良夫（立命館大学教授）＋除本理史（大阪市立大学教授）

> 脱原発関係訴訟とも連携した内容でのプログラムを検討する。

メインスピーカーの1人として全体会での井戸謙一氏にも願います。

### ② 「福島からの原発ゼロ社会に向けた課題と展望」分科会（仮称）：

> 「原子力市民委員会」＋「環境エネルギー政策研究所」が共催。

> 寺西から、吉岡齊氏および飯田哲也氏に依頼・打診のうえ、承諾済み。

> できれば、「放射性廃棄物処理」（廃炉問題を含む）をめぐる問題も取り上げる。

### ③ 「核兵器廃絶分科会」（仮称）：

> 日本反核法律家協会が主催。

> 最近、原爆被害者と原発被害者との交流も実現し、あらためて核そのものの持つ危険性の認識が重要であることが提起された。「第1回」より継続して行っているこの分科会は今後の展望を見出すためには必須との意見が出されている。

### ④ 「メディア分科会」（仮称）：

> 日本ジャーナリスト会議が主催。

> この分科会も「第1回」から継続しているものであり、特に、5年を経過した今日の時点で、メディアは何を伝えきれていないのか、今後、原発報道は何を伝えていくべきかについて議論を深めたいとの意見が出ている。

### ⑤ 「帰還問題分科会」（仮称）：

> （目下、検討中）